

商用車架装物リサイクルに関する自主取組みの進捗状況について

「商用車架装物リサイクルに関する自主取組み」については、第 2 回産構審・中環審合同会議(2002 年 11 月)にて自主取組み内容を公表し、第 8 回産構審・中環審合同会議(2004 年 11 月)にて進捗状況を報告した。その後の取り組み状況は以下の通り。

自主取組みの内容

進捗状況

1．リサイクル設計の推進

(1)易解体性の検討

易解体性アルミ製冷凍バン・試作構造

・インサート材を外板と同じアルミ材とし、鋸盤による切断の容易化を図る。

・ノンフロンタイプの断熱材を使用した。(FRPとの一体処理が可能。)

・木材不使用。

(2)解体マニュアル作成

(3)使用材料名、製造者名の表示

(4)リサイクル困難材の代替材調査

(5)環境基準適合ラベルの設定

(1)易解体性向上を図ったアルミ製冷凍バンを試作し、解体性・保冷性等の試験を実施した。

解体性（手ばらし）

標準的な解体時間を従来の12時間から6時間に半減することを目指し、解体性の試験を実施した。

その結果、8時間に短縮することができ、今後、解体方法の改善等により目標は達成可能と判断した。

保冷性

問題なし。

* 今後は今回の実験結果にもとづき、各社で易解体性バン製作について、耐久性を含めて取り組む。

* 結果は車工会ホームページにて2005年5月より公表済み。(参考資料1)

(2)レントゲン車、冷蔵・冷凍車、タンクローリ等を作成、市場の大半をカバーできた。更に継続する。

	2004年9月		2005年5月	
	作成	2003年度 生産台数換算	作成	2004年度 生産台数換算
レントゲン車	4社/7社	75%	4社/7社	72%
冷蔵・冷凍車	9社/22社	85%	12社/22社	98%
タンクローリ	5社/6社	85%	6社/6社	100%

(注) 生産台数は車工会会員生産分

(3)各メーカー推進中(環境基準適合ラベルに反映した)

(4)調査結果を反映し、リサイクル困難材の切替え促進中

木材:アルミ材、樹脂材に切替えたバンボデーを2004年より市販済み。

断熱材：懸案であったコスト、性能面で従来品と遜色のないノンフロン断熱材(参考資料2)が普及し始め、冷蔵・冷凍バン断熱材の約30%が代替済み。

2005年度中には約70%になる見込み。

(5)環境に配慮した車体の普及を図るために車工会で定めた4要件を満たすボデーに貼付済み。(参考資料3)

	2004年9月	2005年5月
架装物種類	102種類	122種類
発行枚数	76,500枚	136,000枚

